

ベランダで学習

1年3組がベランダで朝顔の観察をしていました。今までだと、中庭のコンクリートや土の上で汗をいっぱいかきながら、絵を描くのも文字を書くのも大変な観察でした。

新校舎になると、教室の目の前が観察場所です。絵だけ描いたら、すぐ教室の中の机の上で色を塗ったり、文を書いたりすることができてとても効率がいいと担任の先生が言っていました。これからは雨が降っても、少しぐらいだったら観察の学習ができます。よかったなあと思いました。

3年生が天文学？

3年2組は理科の時間でした。と思ったのは間違いで本当は国語の時間でした。というのは・・・

先生：「月の満ち欠けは、新月から始まって満月まで行って、また新月に戻るのに、だいたい28日から29日ぐらいかかるんだよ。」「だいたい30日と考えて、その半分の15日の時の満月だから十五夜って言うんだ。」

子ども：「あ～、そうなんや。」「十五夜はいっぱいあるのに、なんで秋の十五夜が有名なんですか？」

先生：「すごいなあ。そんなん…説明しよかあ？でも3年生のレベル超えてるで。聞く？」

子ども：「聞く、聞く。」

その後、素晴らしい説明で、子どもたちは大満足といった感じでした。月見だんごの話も「実りの秋」につながったし、秋についてのイメージをどんどん広げていきました。

実は、国語の「秋の楽しみ」の単元の導入の部分だったのですが、担任の先生も天文学が大好きな先生なので、こんな展開になったのだそうです。楽しい授業でした。

筆者にももの申す！！

6年3組の国語の授業を見てきました。850年前に描かれた『鳥獣戯画（ちょうじゅうぎが）』という絵巻物について高畑勲さんが書いている評論が題材です。高畑勲さんは、「アルプスの少女ハイジ」や「風の谷のナウシカ」などをプロデュースし、紫綬褒章を授与された日本長編アニメ界の巨匠です。こんなすごい人が書いた評論に対して、まだ12年ほどしか生きていない子どもたちが「自分は納得できるか？」「どこが納得できて、どこができないのか？」という意見交流をする学習でした。

ちょっと荷が重いのではと思いましたが、結構、子どもなりの意見が発表できていました。納得できる理由もちゃんと言えましたし、納得できない理由を述べて、言わば批判的に読んでいる子どもたちもいました。今までの国語のように細かいところを突っ込んで学習するというかたちではなく、全体を大きく捉え、作品に対する自分なりの考えを持つことをねらいとして行われた授業でした。

現代の国語科ではそのような力が重要視されてきており、以前から研究を重ねてきましたが、なかなかいい感じだったと大学の先生にも評価していただきました。方向性が間違っていないことに喜びを覚えるとともに、今後も益々研究に邁進していきたいと思いました。